

大雨対策

滝の端草田本線かさ上げ 道路の浸水を防ぐ

住民の
安心安全のため



大雨が降るたび、浸水で通行止めとなっていた滝の端草田本線の北端（下倉地内）のかさ上げ工事が完了しました。

草田地区は、大雨で高梁川が増水すると、福谷方面と美袋方面の両側が通行止めになり、陸の孤島状態となることがありました。平成23年9月の大型台風通過時も、避難勧告が発令されたにも関わらず、道路が通行止めとなり孤立。地元住民は不安な状態でした。このことから、通行の利便性や安全性、防災対策のため、平成24年9月から工事に着工。浸水が多発していた箇所をかさ上げし、大雨時も草田地区から美袋方面へ通り抜けることができるようになりました。

草田町内会長の田中健治さん（下倉）は「便利になると共に、水害で遮断される可能性が減り安心です。住民みんな喜んでます」と話しました。

総事業費は8000万円。道路と橋を合わせて374mを改良しました。

問い合わせ 土木課土木係（☎92-8291）

同で制作した防災かるたも登場。総社ひまわり児童クラブや久代幼稚園、総社幼稚園で実演がありました。県立大学のデザイン学部の学生が考案した11デザインのものから、人気投票の結果、上位2つを作成。今後、小学校などに配られ、楽しく防災を学ぶツールとして使用されます。

総社市防災週間は、昨年行われた子ども議会での「市独自の防災週間を定め、市民の防災意識を高めよう」という提言を実現したもの。提言した中島由香さん（当時総社東中3年）は「この防災週間には被災地の人から受け取った思いが詰まっている。多くの人にこの思いや災害に備える心が広く伝わってほしい」と話しました。



下原の自主防災組織の消火訓練 [5/29]



防災かるたで楽しく学ぶ総社ひまわり児童クラブ [5/25]

防 災週間の期間中、防災意識を高めるさまざまなイベントが市内各所で行われました。自主防災組織や幼稚園、小学校などを対象に起震車体験や防災講座、

消火訓練といったプログラムを展開。参加者はいつ起こるか分からない災害に対し、常に備えるという心を養っていました。また、岡山県立大学と共



常盤小学校の4年生に防災講座 [5/31]



市職員も土のうを作る訓練に励んだ [5/28]



建築面の防災対策を学ぶ昭和地区住民 [5/30]

いつだって 備える心 を忘れない

市民の防災意識を高めようとして5月25日から31日までの7日間を「総社市防災週間」と定めました。総社市は災害が少なく、市民の防災意識が低いことが懸念されています。また、東日本大震災から2年以上が経過し災害の恐怖や備える意識が薄れないよう、今一度、防災について考える機会になりました。

